【KEYTRUDA+AC　療法について】
（ペムブロリズマブ（キイトルーダ）＋ドキソルビシン＋シクロホスファミド）

お薬の名前と治療のスケジュール（副作用の状況を考慮して、抗がん剤の影響が強く残っていると考えられる場合は、次回の治療開始を延期することがあります。）

薬の名前	作用	めやすの時間	1日目	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
ペムブロリズマブ注（キイトルーダ）	抗がん剤です	30分																					
ホスネツピタント注（アロカリス） パロノセトロン注（アロキシ） デキサメタゾン注（デキサート）	吐き気止めです	30分	前後に生理食塩液を点滴します。																				
ドキソルビシン注	抗がん剤です	5分	尿の色が赤くなることがあります。																				
シクロホスファミド注（エンドキサン）	抗がん剤です	30分																					
生理食塩液		15分																					
デキサメタゾン錠（デカドロン）	吐き気止めです	朝・夕食後		1回1錠																			
メトクロプラミド錠	吐き気止めです	朝昼夕食前	○	○	○	○	○	○	○	○													
ファモチジンOD錠	胃薬です	朝夕食後	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
センノシド錠	便秘薬です	寝る前		翌日からは症状に応じて服用																			

夕食前～

夕食後～

この週はお休みです。

この週はお休みです。

治療による副作用

：注意が必要な時期

		1日目	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
自覚症状	食欲不振・吐き気	食欲低下や吐き気がすることがあります。食べやすいものを無理なく食べ、水分を摂りましょう。																				
	出血性膀胱炎(血尿・排尿痛)	排尿時の不快感、尿に血が混ざるなどの症状があるときはお知らせください。																				
	口内炎	口の中が荒れて痛みが出ることがあります。歯磨き、うがいなど丁寧にしっかり行いましょう。																				
	色素沈着	肌が黒ずむことがあります。長袖や帽子などを用いて、日光など紫外線には注意してください。																				
	脱毛（頭髪・まつ毛・眉毛など）	髪質が少し変わることもありますが、治療後半年程度でまた生えてきますので、心配しすぎないでください。																				
検査値	白血球減少	感染しやすくなりますので、手洗いうがいを心がけましょう。必要に応じて白血球数を上げる注射をすることがあります。発熱時はお知らせ下さい。																				
	赤血球減少(貧血)	貧血の症状（めまい・ふらつき）がでたりします。転倒に注意しましょう。																				
	血小板減少	出血しやすくなって手足に赤い点やあざがでたり、歯ぐきから血が出たりすることがあります。転倒に注意しましょう。																				

心機能低下（治療回数が増えると生じることがあります。息苦しさなどがありましたらお知らせ下さい。）

ペムブロリズマブ（キイトルーダ）の作用

- 私たちの体の中では、免疫細胞が、がん細胞などの異常な細胞を攻撃、排除しています。
- しかし、がん細胞は免疫細胞の働きにブレーキをかけ、その攻撃から逃れる事が分かってきました。
- この抗がん剤は、免疫細胞の働きにがん細胞からのブレーキがかからないようにします。
- この結果、免疫細胞は攻撃力を取り戻し、がん細胞を再び攻撃する事ができるようになります。

ペムブロリズマブ（キイトルーダ）治療による副作用

- 軽度の皮膚障害（発疹、かゆみなど）は、早期におこることが多いです。
- 注意を要する副作用の**一部**　（【】かっこ内は症状の例）
  - ●間質性肺疾患 【息切れ、息苦しい。咳が出る。発熱など】
  - ●1型糖尿病 【口が渇く。たくさんの水分が欲しくなる。尿の量や回数が増える。疲れやすい。体重が減る。吐き気、嘔吐。腹痛など】
  - ●甲状腺機能障害 【気力の低下。疲れやすい。まぶたが腫れぼったい。さむけを感じる。体重が増えるまたは減るなど】
  - ●重症筋無力症 【まぶたが下がったまま戻らない。物が二重に見える。手足に力が入らないなど】
  - ●薬剤の注入に伴う反応（点滴中または投与後）【吐き気、嘔吐。注射部位のほてり、痛み。かゆみ。息切れ、息苦しい。発熱など】
- **その他の副作用や副作用の詳細は、別にお渡しした説明冊子を参考にしてください。**
- 今後の外来での治療に際して、自宅での症状確認の参考としますので、お渡しした説明冊子の治療日記に記入をして下さい。

＊感染症や口内炎を防ぐために、口の中を清潔に保つ必要があります。うがいを行って下さい。
＊37.5度以上の発熱がある場合は、**抗生剤（レボフロキサシン）**を内服して下さい。内服を開始したら1週間継続して

実際の投与スケジュールと異なる場合があります。本資料は参考としてお使い下さい。

名古屋市立大学医学部附属西部医療センター薬剤部（代表）052-991-8121